

岡山県高等学校教育研究協議会

第5回会議 説明資料

開催日:令和8年7月30日(木)

場 所:岡山県庁3階大会議室

●「生徒に身につけてほしい資質・能力」(これまでの会議での高教研委員の発言から)

岡山県高等学校教育研究協議会

- ・主体性(自己決定力) ・情熱(パッション) ・挑戦する心
- ・他者を尊重する姿勢 ・協働する力 ・協調性
- ・自己調整力 ・自己理解力(自己認識力)



「情熱を胸に、他者と協働して変化を乗り越え、未来を切り拓く挑戦者」

【参考】

第4次岡山県教育振興基本計画(令和7年2月策定)

(本県が目指す教育の姿)

基本目標	「夢に向かって、心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成
育みたい資質能力	○確かな学力と自ら挑戦する意欲や創造性 ○豊かな心・健やかな体 ○地域を大切にする心と社会の形成者としての自覚

全日制・定時制・通信制の在り方について

目 次

- ① 国の動き
- ② 本県県立高校(全・定・通)の現状と課題
- ③ 他県の取組事例
- ④ 市町村長の御意見を伺う会及び学校視察における主な意見
- ⑤ 専門委員会の協議状況
- ⑥ 研究協議

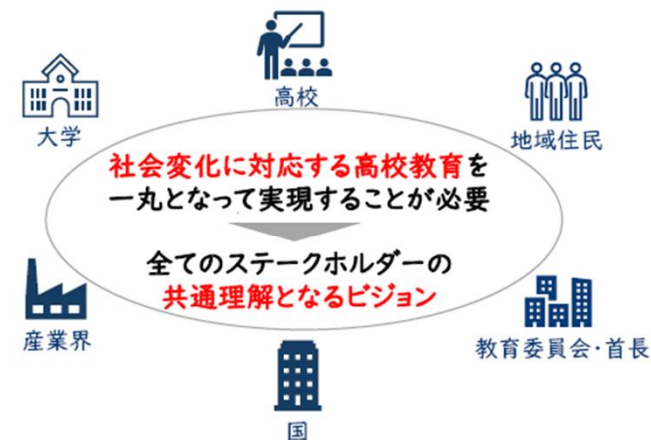
① 国の動き

高校教育改革に関する基本方針(グランドデザイン)【概要】 ～2040年に向けた「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」～

New Education, New Excellence, New Transformation of High Schools

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
2040年には、**少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化**が一層深刻化
→現在の人材供給トレンドが続けば、**労働力需給ギャップが発生**
(事務職は余剰、**AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足**)
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
→生徒それぞれの**多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現**を支え、**生徒の可能性を広げ能力を伸ばす**
→全ての高校生が**家庭の経済状況等に左右されることなく**、希望する大学等への進学や就職等をし、それが**個人の幸福**につながり、ひいては、**我が国の経済・社会の基盤を強いもの**としていくことにつながる



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点1 不確実な時代を自立して生きていく
主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

- 学びの在り方の転換 (New Transformation)**
- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、**「好き」「得意」を伸ばす機会を確保**し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
 - ✓ スクール・ミッション、**スクール・ポリシー**を踏まえた**教育活動の改善、公表**
 - ✓ **高校教育と一貫した大学教育改革**(主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等)

視点2 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

- 最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化 (New Excellence)**
- ✓ **探究・文理横断・実践的な学び**、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
→ **理数・文系的素養やAIを使いこなす力**を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感
 - ✓ 各高校の**特色化・魅力化**
→ 学科構成の見直し、**専門高校の機能強化・高度化**、グローバル人材の育成
→ **「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成**

視点3 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 学ぶ機会・アクセスの確保 (New Education)**
- ✓ **全国どこにいても多様で質の高い学び**を保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
(**地理的アクセスの確保**、都道府県の実情等に応じた**学校配置・規模の適正化**、小規模校を含む**遠隔授業**等の推進)
 - ✓ 通信制高校の**教育の質の確保・向上**
 - ✓ **不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導**が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の
高校教育改革に関する
グランドデザイン策定

都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の
仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成
過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化
(アドバンスド・エッセンシャルワーカーの育成等)



(学校のイメージ)

地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
(文理の双方の素養を有する人材の育成等)



(学校のイメージ)

文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保



(学校のイメージ)

学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

(取組例)

- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】

- ・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校:100%
- ・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】

- ・文理横断的な学びに取り組む普通科高校:100%
- ・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合:同程度

【多様な学びの確保関係】

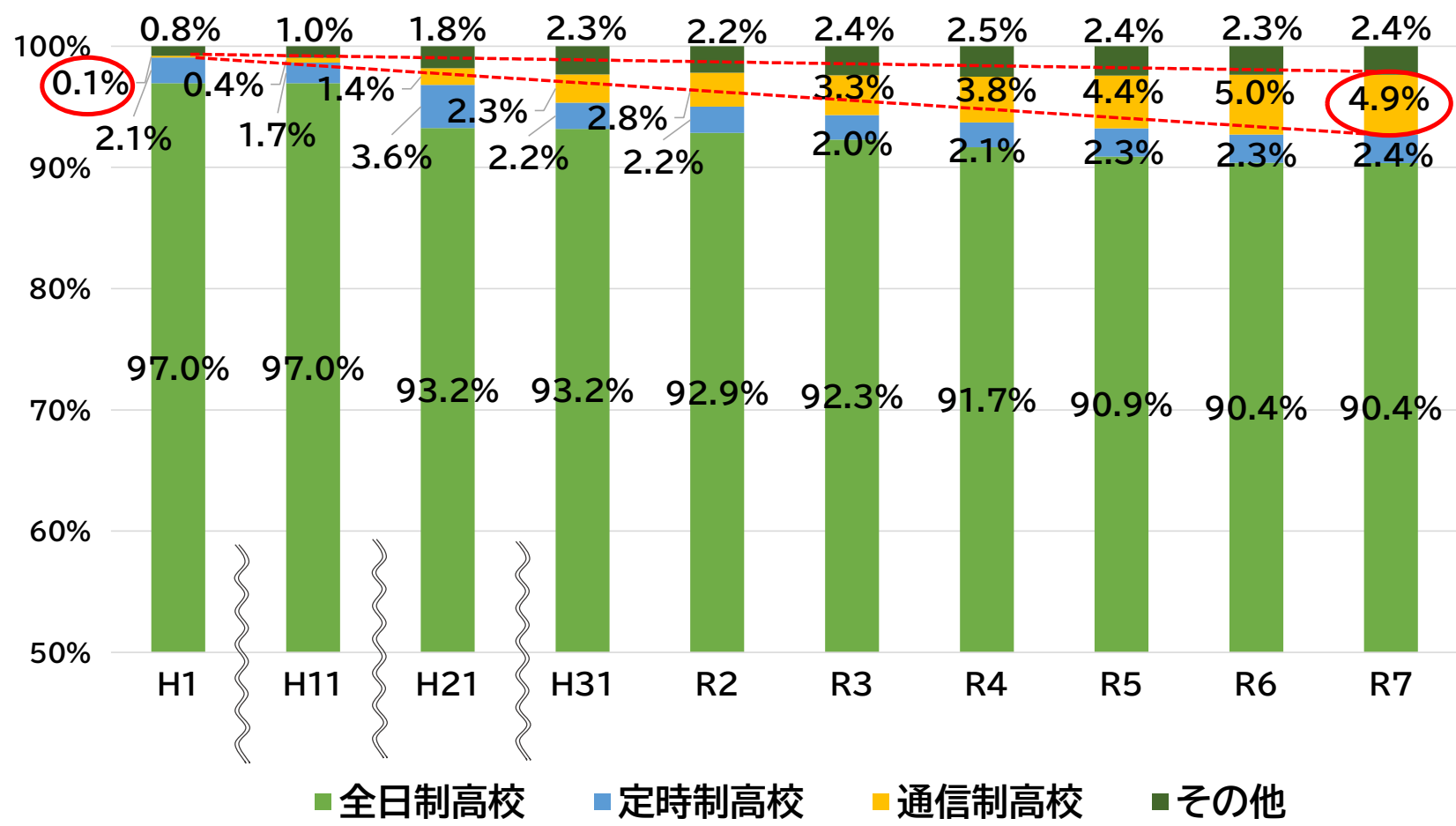
- ・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
- ・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

② 本県県立高校(全・定・通)の現状と課題

②-1 全日制・定時制・通信制の概要(県立高校における現在の仕組み)

課程		修業年限	学校数
全日制	 通常の時間帯において授業を行う課程	3年	県立50校 市立2校 私立23校
定時制	 夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程	3年以上	県立1校 市立10校
通信制	 通信による教育を行う課程	3年以上	県立1校 私立9校

②-2 高等学校等進学者における課程別割合の推移(全・定・通)



文部科学省「学校基本調査」を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

※その他：中等教育学校後期課程、高等専門学校、特別支援学校高等部

②-3 中学校卒業後の進路状況の推移

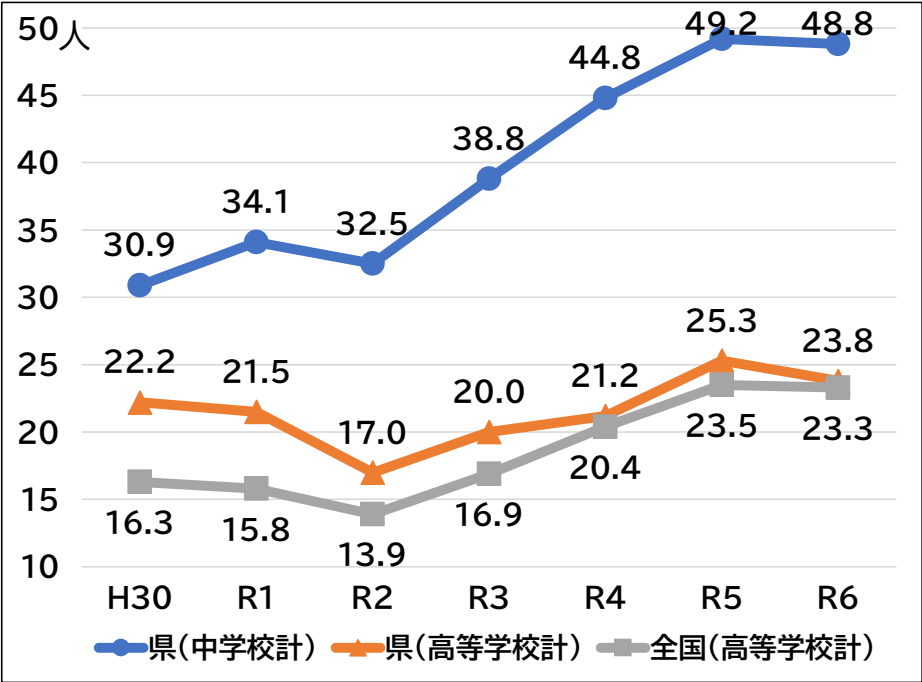
	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
県内全日制高校	16,052	15,586	15,017	15,286	15,170	14,803	14,521
県内定時制高校	368	361	334	333	375	379	385
県内通信制高校	102	103	134	140	179	226	258
県外全日制高校	240 (1.4%)※1	268 (1.6%)	260 (1.6%)	277 (1.6%)	306 (1.8%)	298 (1.8%)	304 (1.8%)
県外定時制高校	8	5	9	11	20	4	2
県外通信制高校	301	370	408	491	557	592	557
その他※2	618	582	608	621	651	610	627

※1 括弧内は中学校卒業後全体に占める割合

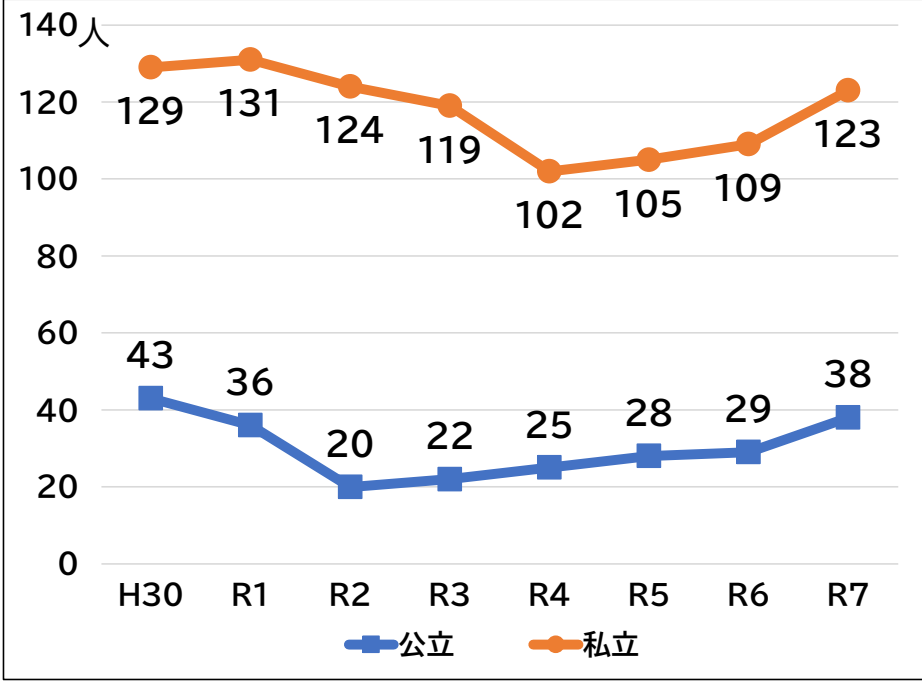
※2 高等専門学校、特別支援学校高等部、専修学校、就職、無業等

②-4 多様な背景を有する生徒の状況

中学校・高等学校における不登校生徒数
(1,000人あたり)の推移(国公立計)



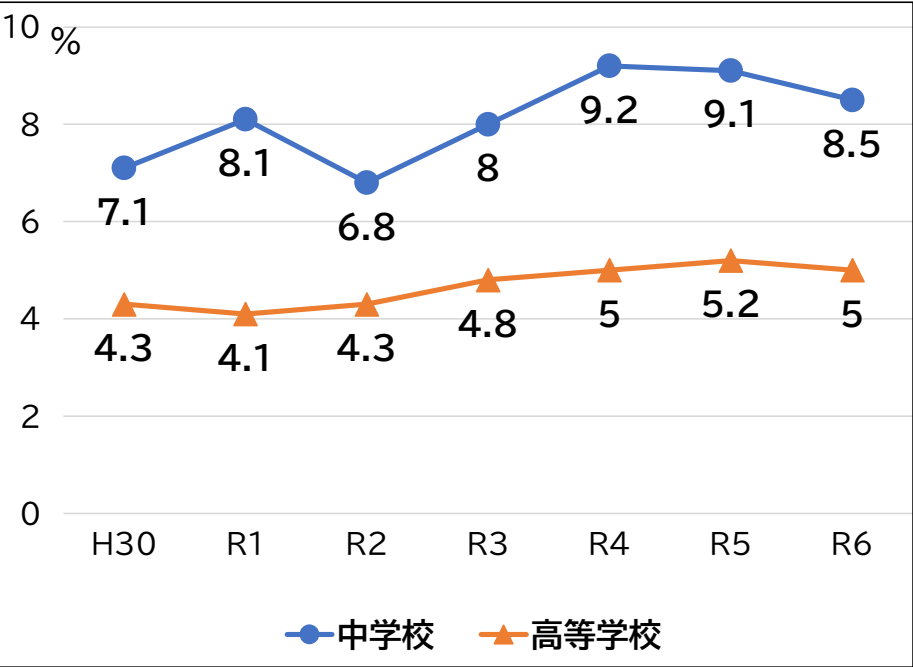
高等学校における外国人生徒数の推移
(全日制・定時制)



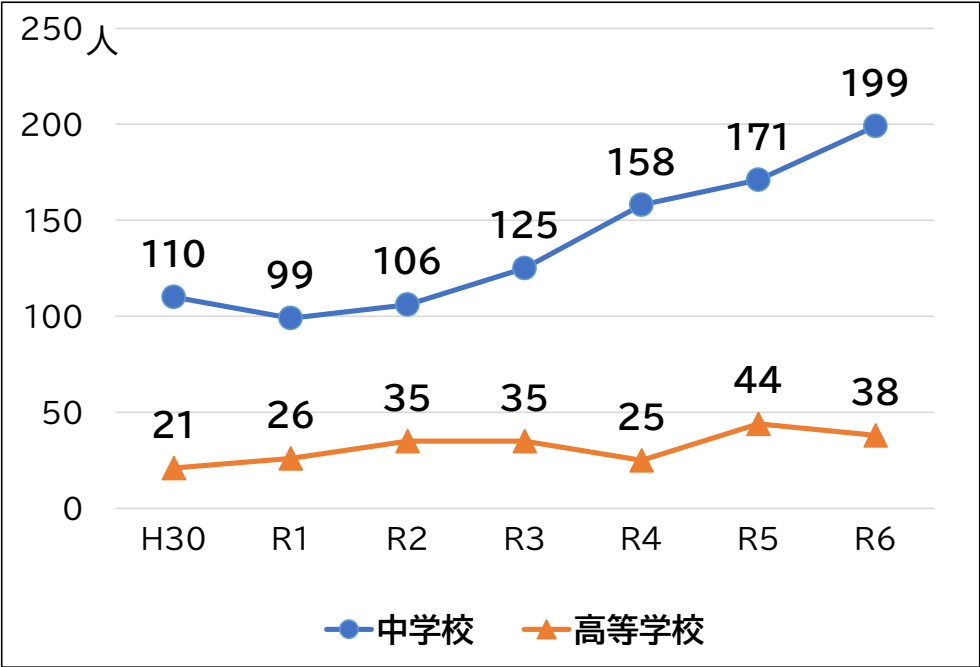
文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成
文部科学省「学校基本調査」を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成

②-5 多様な背景を有する生徒の状況

通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の割合の推移(公立)



通級指導教室の生徒数の推移(公立)



②-6 全日制高校の現状

・適正規模を1学年4～8学級としているが、地域によってはこれを下回る学校が増えている。(R8年度、1学年が3学級の学校は13校)

	岡山	倉敷	美作	西備	備北	東備	計
8学級	7	4					11
7学級	3	3					6
6学級	1	4	2				7
5学級	2		1				3
4学級	2	2	2	2	2	1	11
3学級	1		3	4	1	4	13
学校数計	16	13	8	6	3	5	51

※中等教育学校含む

②-7 定時制高校の現状

設置者	学校名			R8募集定員	R8第1学年生徒数	R8定員充足率
		昼間部学科名	夜間部学科名			
岡山県	烏城	普通科	普通科	140	128	91.4%
倉敷市	精思	-	普通科	80	11	13.8%
			商業科			
	精思霞丘校	普通科 商業科	-	60	57	95.0%
				30	24	80.0%
	倉敷市立工業	-	機械科	80	16	20.0%
			電気科	40	10	25.0%
	倉敷翔南	総合学科	総合学科	120	71	59.2%
	真備陵南	普通科	-	80	46	57.5%
玉野市	玉野備南	普通科	-	40	28	70.0%
井原市	井原市立	普通科	普通科	80	19	23.8%
高梁市	松山	-	普通科	40	4	10.0%
	宇治	普通科	-	40	5	12.5%
備前市	片上	-	普通科	40	18	45.0%

※精思高校(商業科)はR6年度から募集停止

②-8 県立鳥城高校(定時制課程)の現状

○在籍者数(R8.5.1)

区分	昼間部	夜間部	合計
1年	104	31	135
2年	95	17	112
3年以上	92	41	133
計	291	89	380

○卒業後の進路

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
進学	33	31	40
就職	26	32	25
その他	22	8	19
卒業者数	81	71	84



【文化祭準備の様子】



【給食の様子】



【リーダー研修会の様子】

○時間割

S人間力※1	10:00-10:10
1校時	10:25-11:10
2校時	11:20-12:05
3校時	12:50-13:35
4校時	13:45-14:30
5校時※2※3	14:45-15:30
6校時※2※3	15:35-16:20
増加枠授業※3	16:25-17:10
S人間力※1	17:20-17:30
7校時	17:35-18:20
給食	18:20-18:50
8校時	18:50-19:35
9校時	19:35-20:20
10校時	20:20-21:05

※1 1日の最初に行う10分間の学習の時間

昼間部



【授業の様子(昼間部)】

夜間部



【授業の様子(夜間部)】

- ※2 月・火・木は昼夜間共通授業
- ※3 夜間部で3年卒業を希望する場合(増加枠は2年次の火・木)

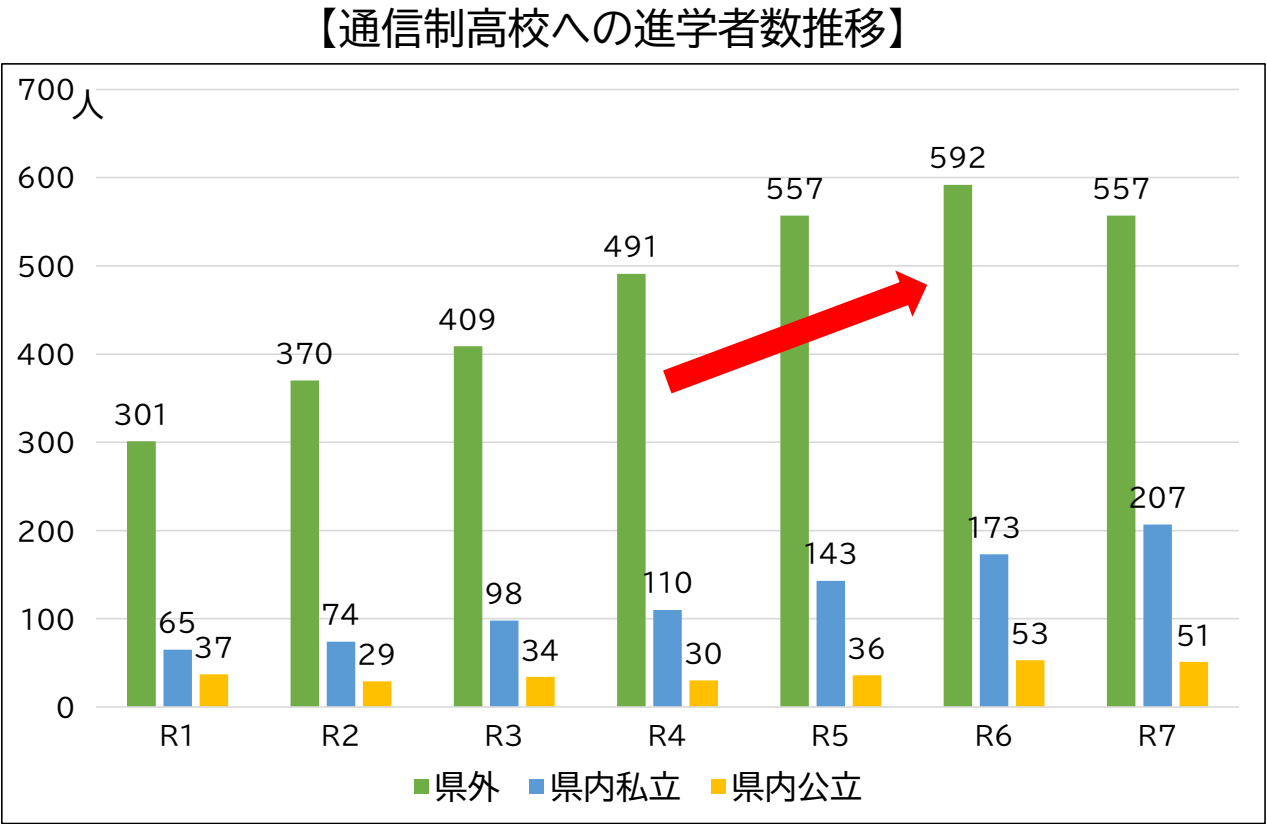
②-9 県立烏城高校(定時制課程)の現状と課題

○現状と課題(学校ヒアリングを基に作成)

- ・不登校経験者、日本語指導の必要性、生活背景や学習歴の違いなど、生徒・保護者のニーズがより多様化しており、従来の一律的な指導・支援では対応が難しくなっている。
- ・夜間部において、日本語指導を必要とする外国人生徒が増加しており、学習支援に加えて、生活面や進路面を含めたきめ細かな対応が求められている。
- ・多様なニーズへの対応が求められる中、支援人材の不足などから、教職員の負担が増大しており、行政、福祉などの関係機関等との更なる連携が求められている。
- ・教育内容については、生徒の8割が学び直しの授業に満足している一方で、進路実現に向けた多様な授業の実施が求められている。

②-10 通信制高校の現状

学校名	収容定員	R8在籍生徒数
県立岡山操山	2,000	1, 081
岡山理科大学 附属	600	255
鹿島朝日	8,000	4,966
岡山県美作	300	141
興譲館	240	43
滋慶学園	900	268
ワオ	1,200	191
岡山龍谷	240	28
岡山学芸館	240	161
創志学園	5,100	404



岡山県総務部総務学事課調査を基に、岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室で作成
 岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ

②-11 通信制高校の現状

○通信制高校の現状と課題

- ・国において、ガイドライン等の改正等により通信制高校の質の確保・向上を図っているが、依然として、一部の学校で違法・不適切な学校運営や教育活動が行われている事例が見受けられる。
- ・広域通信制高校のサテライト施設については、所轄庁の県域を越えて展開していることから、所轄庁が監督することが物理的に困難であるといった課題が生じている。
- ・入学者選抜の日程について、各都道府県において公立・私立の高校及び中学校の関係者による協議等を経て定められた日程より早く実施されている場合があるとの指摘がある。

文部科学省「令和の日本型学校教育」の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議審議まとめ（令和4年8月29日）概要より抜粋
文部科学省「高等学校入学者選抜等における配慮事項等について（通知）（令和8年6月30日）」より抜粋

○公立通信制高校と私立通信制高校の経費の比較

	入学金	授業料(1単位あたり)	必要経費
公立通信 (岡山操山)	500円	330円※1	年間約6万円(受講する科目によって決まる) ※受講料、生徒会費、教育振興費、教科書など含む
私立通信 (県内広域通信制高校を参照)	0～100,000円	11,000 ～14,000円※1	・各校・コースにより異なる。 (例)教科書、補習費、施設整備費2～8万円、教育運営費10～20万円、スクーリング費、ICT端末代など。 サポート校を利用する場合は、別途利用料が必要。

※1 通算74単位、年間30単位までは、1単位につき、公立：336円、私立13,668円を上限に高等学校等就学支援金が支給される。

岡山県教育庁高校教育課高校魅力化推進室調べ

②-12 県立岡山操山高校(通信制課程)の現状

○受講者数と在籍者数(R8.5.1)

受講者数					在籍者数
1年次	2年次	3年次	4年次	計	
82	146	163	123	514	1,081

※受講者の平均年齢 18.0歳

○卒業後の進路

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
進学	43	50	62
就職	13	15	21
その他	54	50	46
卒業者数	110	115	129

○学校の特徴

- ・自宅学習を中心とし、日曜日にはスクーリング(面接指導)を行っている。
※協力校である倉敷青陵高校と津山高校でも、スクーリングが可能。



【授業の様子】



【レポート提出の様子】



【特別活動の様子:操山ハイキング】



【特別活動の様子:スポーツ祭】

②-13 県立岡山操山高校(通信制課程)の現状と課題

○現状と課題(学校ヒアリングを基に作成)

- ・入学者の約4割を占める新入生については、約8割が小・中学校時代に長期欠席を経験した生徒であり、特別な支援を必要とする生徒も多い。
- ・入学者の約6割を占める転編入生の中には、学習面や人間関係に課題を抱える生徒や、本人の強い意志ではなく、教員や保護者に勧められたからという理由で入学する生徒もあり、学習意欲の向上や継続的な学習参加を促す支援が課題となっている。
- ・大学進学を目指す生徒と学び直しを必要とする生徒が同じ学校で学んでおり、幅広い学力層や進路希望への対応が課題となっている。
- ・卒業時点で進路が未決定の生徒について、学校では一人一人の状況に応じた進路指導を行っているが、アルバイトを選択する生徒や、進学や就職を急がず自らの進路を模索する生徒などが多くいる。
- ・生徒のニーズが多様化・複雑化する中、個々の状況に応じたきめ細かな支援を継続するため、教員配置の充実やスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)等の専門スタッフを含めた支援体制の強化が必要となっている。

②-14 課程を超えた学び(岡山御津高校におけるフレックス制)

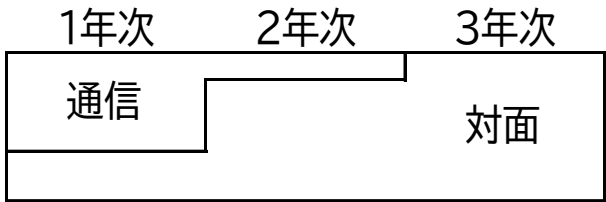
○フレックス制導入の背景

- ・令和5年度入試において、不登校経験者等も受け入れるというスクール・ポリシーに変更したところ、志願者数が急増したため、令和7年度入試より、全日制高校への進学を目指している不登校傾向の中学生が全日制高校を卒業することを支援する仕組み(フレックス制)を導入

○フレックス制の概要と現状

- ・岡山御津高校に在籍したまま、岡山操山高校通信制課程の一部の科目を履修し単位を修得(全通併修)することが可能。
- ・令和8年度入試では、志願者数は導入時と比較して、約3倍に増加した。

【履修イメージ】



【フレックス制に係る入学者選抜の実施状況】

年 度	科 名	募集人員	志願者数
R7年度入試	キャリアデザイン	24	10
R8年度入試		24	28

約3倍

②-15 特別な支援を必要とする生徒への支援「通級指導教室」

○本県の現状

- ・平成30(2018)年度から、特別支援学校の領域である「自立活動」を取り入れた「通級による指導」(通称、「通級指導教室」)を行っている。(当初、公立高校4校に設置)
- ・令和8(2026)年度、通級指導教室の設置校数は13校である。

○本県の通級指導教室設置校(令和8(2026)年度、公立)

- | | | |
|-----------|---------|-------------|
| ・瀬戸高校 | ・高松農業高校 | ・東岡山工業高校 |
| ・岡山御津高校 | ・倉敷鷺羽高校 | ・高梁城南高校 |
| ・新見高校 | ・邑久高校 | ・勝山高校(蒜山校地) |
| ・鴨方高校 | ・矢掛高校 | ・勝間田高校 |
| ・市立玉野備南高校 | | |



通級による指導

③ 他県の実施事例

③-1 「エンパワメントスクール」指定校(全日制)

大阪府立布施北高校

○大阪府教育委員会が、「エンパワメントスクール」に指定

- ・総合学科「モノづくり・ビジネス」「教育・福祉」「多文化・教養」の3系列を設置。
- ・つまずいたところを徹底的に学び直し、社会で活躍するために必要な力をつけることを目指す。

○モジュール授業

- ・1年次の国語・数学・英語は30分授業を毎日実施。
- ・中学校や小学校の基礎的な内容を学習。

○デュアルシステム

- ・「学校」と「実社会」、2つの学びを融合した先進的なキャリア教育を実施。1年次には2日間のインターンシップ、2・3年次には週に1回、地元事業所で丸1日の職業体験実習(デュアル実習)。

【大阪府教育委員会によるエンパワメントスクールの指定状況】

設置年度	学校名
H27年度	西成高校、長吉高校 箕面東高校
H28年度	成城高校、岬高校
H29年度	布施北高校
H30年度	淀川清流高校 和泉総合高校

※西成高校と岬高校は、R6年度からステップスクールの指定となっている。

③-2 「グローバルリーダーズハイスクール」指定校(全日制)

大阪府立豊中高校

○「グローバルリーダーズハイスクール(GLHS)」とは

「豊かな感性と幅広い教養を身に付けた、社会に貢献する志を持つ、知識基盤社会をリードする人材を育成する。」ことを目的に、大阪府教育委員会が府立高校の特色づくりの一環として豊中高校他9校を指定。

○大学連携によるハイレベルな学び

大阪大学、京都大学、大阪工業大学など、多数の国内の大学と連携し、講演会、高校生への指導を実施したり、GLHS10校合同の企画として、阪大ツアーや京大キャンパスガイド、課題研究発表会を実施するなど、大学連携によるハイレベルな学びにより、将来を見据えた高度な体験の機会を提供。

○多彩な国際交流の機会

留学生交流会、ディベートセミナー、海外の高校との交流、海外研修といった多彩な国際交流の機会の創出により、英語での発信力を高め、グローバルに活躍する人材を育成。



京都大学見学会

大学キャンパス内で説明を受けたり、研究室の見学もできます。



カトリック高校（シンガポール）との交流

③-3 定時制・通信制の併修制度を活用している高校(定時制・通信制)

愛媛県立北条清新高校

○高校の概要・取組内容

- ・生徒一人一人に対応した、自由度の高いフレキシブルスクールとして、昼間二部定時制課程と通信制課程を併置している学校。
 - ※昼間二部定時制とは、午前が始まる「昼間Ⅰ部」と、午後に始まる「昼間Ⅱ部」のこと
 - ※R8.4.10時点の在籍生徒数は、定時制72名、通信制449名(新入生150名、継続生299名)
- ・定通併修(定時制に在籍しながら通信制の単位を修得)及び、通定併修(通信制に在籍しながら定時制の単位を修得)が可能。



③-4 通信制高校のサテライト校(通信制)

長野県立長野西高校 望月サテライト校

○高校の概要・取組内容

- ・長野西高校(通信制)を本校とする学びの場。
- ・きめ細かな生徒支援をベースとしつつ、多様な生活・学習スタイルに合わせた最大週5日登校、ICT(情報通信技術)活用による個別最適化された学び、地域と協働した探究的な学びの推進をコンセプトとした通信制高校。

○時間割(例)

		月	火	水	木	金
1	9:00-9:50	体育 I	SBS英語	言語文化	キャリアⅢ	特別活動
2	10:00-10:50	地理総合				
3	11:00-11:50	科学と人間	SBS数学	数学 I		
SHR/清掃/昼休み					福祉施設訪問	
4	13:00-13:50					
5	14:00-14:50	英語コ I				
6	15:00-15:50			公共		



④ 市町村長の御意見を伺う会及び学校視察における主な意見

参考資料を御参照ください。

⑤ 専門委員会の協議状況

⑤-1 課題を踏まえた今後の在り方(専門委員会の調査・研究より)

○全日制・定時制・通信制に共通する事項

- ・全日制・定時制高校へ進学したものの、必要な支援が十分に受けられず高校生活を最後まで送ることができない生徒もいる。どの課程においても支援体制の一層の充実を図るとともに、課程の枠を超えた柔軟で質の高い学びを保障できる教育体制を構築することが望ましい。
- ・多様なニーズへの対応が、教員個人の踏ん張りに依存しているという課題があることから、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)といった外部人材を活用し、持続可能な仕組みを構築することが望ましい。
- ・卒業後の進路が未決定の生徒が一定数存在しており、特に、定時制・通信制に通う生徒ほど社会との円滑な接続に課題があることから、卒業後に社会に適応し活躍できる人材を育成するという観点をもち、社会との接続をより円滑にするための仕組みづくりが必要である。例えば、座学だけでなく、デュアル実習(実地体験)を単位認定することなどが考えられる。

⑤-2 課題を踏まえた今後の在り方(専門委員会の調査・研究より)

○全日制・定時制・通信制に共通する事項

- ・少子化の中、学校数を増やすことは難しいが、学校間連携やICTの活用などにより、生徒の学びや進路の選択肢を広げる環境整備を検討することが望ましい。
- ・外国人生徒が増加傾向にある中、入試での特別枠の設定や入学後の支援員の配置といった体制整備が不十分であることから、セーフティネットとしての役割も含め、外国人生徒における入試での配慮、入学後の支援の在り方を検討することが望ましい。
- ・岡山県においては、探究学習に先進的に取り組んでおり、その強みを県全体でさらに発展させていくべきであるが、こうした取組を効果的に推進するにあたっては、伴走・サポート体制が不可欠となるため、教員の人材確保や指導体制の構築も併せて検討することが望ましい。
- ・教育体制整備の検討には一定の時間を要するが、社会情勢の変化に伴い、生徒の教育的ニーズも多様化が進んでいることから、制度設計や計画策定の段階で完璧なものを求めるのではなく、大まかな方向性や枠組みを基に、まずは思い切って着手してはどうか。

⑤-3 課題を踏まえた今後の在り方(専門委員会の調査・研究より)

○全日制

- ・県内において不登校経験者が増加していることを踏まえると、岡山御津高校が実施しているフレックス制(全通併修制度)を他の高校でも導入することが望ましい。
- ・学業や部活動に高い志や卓越した能力を持つ生徒が、中学校卒業段階で県外へ一定数流出していることから、一定の専門性を兼ね備えた拠点校を設置することが望ましい。
- ・県内のどこに住んでいても、生徒が能力・適性等に応じた進路選択ができるよう、魅力ある高校を県内の各地域にバランスよく配置することが望ましい。
- ・県の総合教育センターにサテライト機能を設け、全県に授業等を配信する拠点として活用することが望ましい。

⑤-4 課題を踏まえた今後の在り方(専門委員会の調査・研究より)

○定時制

- ・鳥城高校では、通信制高校への転学者が一定数存在していることから、生徒が卒業するまで学習を継続することができるよう、定時制と通信制を併修できる柔軟な仕組みを検討することが望ましい。
- ・進学、就職、学び直しなど多様なニーズに対応するため、大阪府のように定時制課程に総合学科を設置してはどうか。

○通信制

- ・岡山操山高校通信制課程は、学費が安価である一方、レポート提出や自学自習に高い自己管理能力が求められるため、多様な背景を持つ生徒にとっては選択しにくい面がある。このため、同課程においては進学や探究へ重点化を進めるとともに、これとは別に、多様な背景を持つ生徒を受け入れ、社会的自立の支援や平日スクーリング機能を備えた新たな通信制課程を設置することが望ましい。

⑥ 研究協議

(研究協議)「全日制・定時制・通信制の在り方」について

協議

生徒の多様なニーズに対応した学びを保障する観点とともに、社会の形成に主体的に参画し貢献できる人材を育成する観点から、本県の現状や課題を踏まえ、今後の全日制・定時制・通信制の在り方についてどのように考えるか。

- (1)全日制・定時制・通信制に共通する事項について
- (2)全日制について
- (3)定時制について
- (4)通信制について